重点項目４《生涯学習拠点を活用した地域社会の活性化》

重点とするねらい

- 生涯学習拠点を活用し、大人や子どもが積極的に地域にかかわり、支え合うコミュニティの場づくりをすすめます
- 学んだ成果の情報共有や活用する機会をつくり、地域力の向上を図ります。
- 地域の文化、伝統を伝え、郷土理解を深めるような取組をすすめます。

『重点項目４』30 事業は、次の３つに分類し事業を進めました。
①コミュニティの場づくりのための取組（14 事業）
②学んだ成果を活用するための取組（7 事業）
③地域を学ぶための取組（9 事業）

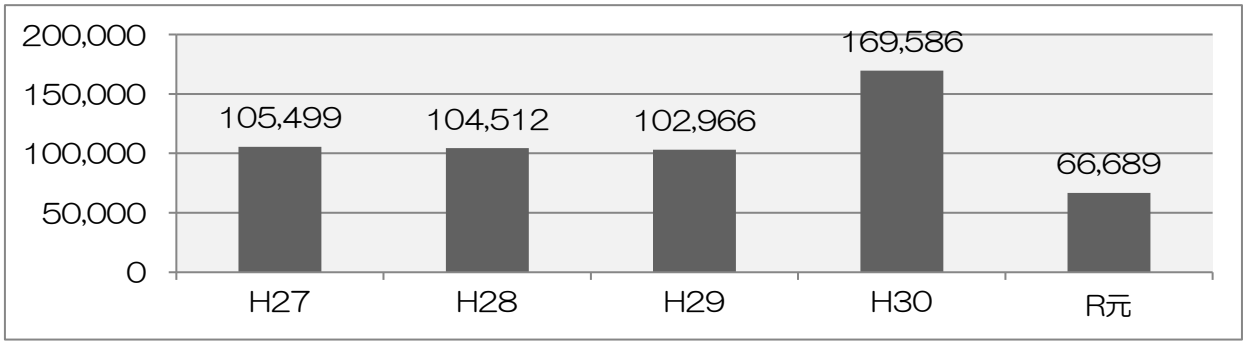
①コミュニティの場づくりのための取組（１４事業）

事業名	事業概要	自己評価・前年度比較		担当課
11.アートギャラリー等施設利用促進事業 【対象：市民】	館を訪れる方の安全の確保と美術品の良好な保存のため、施設の補修や保守点検等適切な維持管理をします。	施設利用日数は概ね前年並みとなりましたが、入場者数は前年実績よりも１万６千人以上減少しました。これは展覧会観覧者数の減や、新型コロナウイルス感染症対策により３月３日から31 日まで臨時休館した影響と考えます。	↘	美術館
12.美術教育の普及・体験事業（ギャラリートークの実施） 【対象：市民】	担当学芸員が展覧会のポイントや作品の解説・質疑応答等を行いながら、展覧会全体を理解してもらうギャラリートークを行います。	実績値は目標値に到達したものの、前年実績よりも 230 人以上の減となりました。傾向として所蔵品展の参加者が少なく、企画展で作家本人等がギャラリートークを行う場合の参加者が多いことから、展覧会観覧者数の減とも関連していると考えられます。	↘	美術館
13.美術教育の普及・体験事業（ワークショップの開催） 【対象：市民】	美術に親しむ人々の拡大と美術に関する学習活動や体験を目的に、子ども・親子や成人を対象としたワークショップを行います。	前年度に比べ、100 人以上の減となりました。展覧会関連ワークショップの開催が少なかったことや新型コロナウイルス感染症対策により３月３日から31 日まで臨時休館したことが影響していると考えられます。	↘	美術館
14.魅力ある美術展覧会事業 【対象：市民】	【別表で詳細に記載】	【別表で詳細に記載】	↘	美術館

「①コミュニティの場づくりのための取組」の主な事業紹介

事業名	４-①-１４ 魅力ある美術展覧会事業		
対象	市民	担当課	美術館
事業概要	多様な年齢層が国内外の優れた近現代美術作品に接する機会を充実するため、テーマを設定した企画展と所蔵品を活用した特集展を開催します。		
主な行動目標	美術に対する関心を高めてもらうため、観覧者数を増やします。		
前年度比較	↘	目標年間観覧者数は 104,330 人となっています。 平成 30 年度観覧者数は 169,586 人でしたが、令和元年度観覧者数は 66,689 人となり、約 103,000 人の大幅減であると同時に５年ぶりに目標数を下回りました。	
自己評価 （実績・課題・今後の方向性）	【実績】 ・企画展として「彫刻とデッサン」展、「荘司福・貴和子」展、「安野光雅」展、「秋野不矩」展を実施しました。このほか、所蔵品を活用した特集展を３回実施、また、美術館ロビーを活用したロビー展として「糸賀英恵」展を実施しました。 ・彫刻とデッサン展では作家が作品を制作する過程でのデッサンを紹介しました。また、荘司福・貴和子展では、初めて親子の作品を展示する展覧会を企画しました。 このように、学芸員の専門性を活かした充実した内容の展覧会を開催し、高い評価をいただきましたが、観覧者数には結びつきませんでした。 ・広報活動としては、美術専門誌や新聞、テレビ番組（NHK「日曜美術館」「アートシーン」等）をはじめとしたメディアが取り上げ、一定の効果があったと考えます。 【課題・今後の方向性】 ・展覧会の企画に関しては、教育機関としての美術館の役割に適う内容を重視しています。と同時に、市民に開かれ、親しまれる内容も考慮しています。専門性と大衆性をバランスよく展覧会に反映させることで、幅広い市民の要望に応えられるよう今後も努力いたします。 ・各種メディアが取り上げた際の効果は大きく、展覧会の評価や観覧者数に影響を及ぼしています。今後も、メディア対応にも力を入れながら、特徴ある展覧会を企画していきたいと考えます。また、従来の広報活動に加え、SNS 等の新たな広報活動に取り組み、市民への周知を充実させます。 これらを通じ、より多くの市民の方に優れた美術作品の鑑賞の機会の提供に努めます。		

魅力ある美術展覧会事業　観覧者数の推移（人）



③地域を学ぶための取組（９事業）

事業名	事業概要	自己評価・前年度比較		担当課
9.美術品の調査・収集事業 【対象：市民】	美術品の収集活動・調査研究や保存活動等を行い、作品情報等を情報コーナーで公開します。	令和元年度は美術品の寄贈 7 点、寄託 70点で、前年度より減少したこともあり、デジタル画像の更新は行いませんでした。作品は次年度の新収蔵作品展で展示します。また、収蔵庫における害虫モニタリングを行い、良好な保存環境であることを確認しました。	↘	美術館

重点項目４《生涯学習拠点を活用した地域社会の活性化》に関する総括

●アドバイザーからの意見

①美術館も博物館もＰＲ活動が大事である。来館者の声を大切に、次の魅力ある企画へ活かしてもらいたい。アニメをテーマにした原画の展示などは、子どもも興味を持ちやすいと思う。大衆性と専門性のバランスは難しいが、芸術を広めるという観点では人が集まらないから失敗というわけではない。テレビ等のメディアに取り上げてもらうなどの工夫で、多くの人に知ってもらえるとよい。また、学芸員の質の向上が、社会教育・生涯学習に与える影響は大きいので、それぞれの専門性を発揮できるような環境を整備してもらい、今後も魅力ある展覧会等を期待している。

②（省略）

●意見を受けての教育委員会の総合見解

①テレビ等のメディアで宣伝されると、全国から電話での問い合わせが増えたので、ＰＲ効果は大きいと考えています。また、近年ではＳＮＳ等での情報拡散の効果も大きく、宮沢賢治の「賢治がみつめた石と星」という図録では、「文学」「地質」「天文」と３ジャンルのファンによる情報拡散が、大きな効果になったと考えています。今後も魅力ある企画ができるよう、アンケート等の要望やニーズを踏まえながら事業を進めてまいります。（美術館・博物館）

②（省略）